

# いしかわの遺跡

No.  
44  
2013.10.11

## 第15回いしかわの発掘展

### 祈りの風景 - 墓標と弔いの品々 -



展示風景 (研修室)

7月12日から9月1日にかけて、第15回いしかわの発掘展が開催されました。「祈りの風景」というテーマで、古代末から近世にかけての、弔いや祈りに関する品々を展示しました。

珠洲市野々江本江寺遺跡出土の木製板碑と木製笠塔婆は、出土資料としては日本最古のもので、墓標の始まりを考える上で貴重な資料です。また能美市宮竹墓谷中世墓群出土の宝塔・五輪塔などの石塔類や、数珠玉・蔵骨器・六道銭など墓に納められる品々も展示しました。野々江本江寺遺跡の地元である珠洲市直の皆さんを始め多くの方々に、初公開となる資料などを見ていただくことができました。



珠洲市直公民館のみなさん

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● http://www.ishikawa-maibun.or.jp/



ふた でらいせき かなざわし  
ニツ寺遺跡〔金沢市〕

ニツ寺遺跡は、金沢市ニツ寺町地内にあり、犀川下流右岸の河川敷に位置しています。調査では、溝、井戸の他、東西径約15m、南北径約12m、深さ5m以上の「大規模な凹み」などが見つかりました。

溝は近世以降の耕作に関連するものや、「大規模な凹み」から延びていたと考えられる古墳時代の溝も確認しました。

井戸は近世以降のもので、水を導くために節を抜いた竹を中央に据付けた井戸や、素掘りの底に砂利を敷いた井戸などを確認しました。

「大規模な凹み」は湧水点に関連したものと考えられ、土は中心に向かって落ち込むように堆積していました。凹みから出土した土器は上から下へ、また中心から縁に向かって陶磁器、土師器・須恵器、弥生土器、縄文土器と古くなり、長い年月にわたって土砂が堆積しています。土器の他に、オニグルミや多くのトチの実、樹齢150年を数える大木の幹も確認されました。

「大規模な凹み」の堆積土に含まれる遺物から、調査地又は周辺には縄文時代から近世の遺跡が存在していたとみられます。



遠景 (北西から)



中央に竹管を据付けた井戸 (南西から)



「大規模な凹み」 (北から)



「大規模な凹み」の堆積土 (西から)

## 福井ナカミチ遺跡 (志賀町)

羽咋郡志賀町福井にある福井ナカミチ遺跡は、旧福野潟の南側、眉丈山系から連なる低丘陵の裾に位置する弥生時代と奈良・平安時代の集落跡です。主要地方道志賀田鶴浜線の道路改良事業に伴い、平成23年度に続き調査を実施しました。

調査区のほぼ全域で平安時代の土器が出土しました。特に、調査区西側で検出した溝から9世紀の土師器、須恵器が大量に出土し、須恵器の中には「至」の異体字や「東」の文字が記された20点以上の墨書土器や、人面墨書土器と呼ばれる人の顔が描かれた坏も含まれます。平成23年度に出土した銅製の帯金具はこの溝の上層からの出土です。

なお、この溝から九州型石錘が出土しました。大型の製品で一般的な滑石製ではなく凝灰岩製です。九州型石錘は弥生時代中期から古墳時代後期にかけて北部九州の玄界灘沿岸に存在するといわれています。溝の時期とは違いますが、地元には北部九州の宗像族との繋がりを示す伝承もあり、興味深い出土遺物です。



遺跡遠景 (北から)



墨書土器の一部



人面墨書土器



九州型石錘

みやほ いせき はくさんし  
宮保 B 遺跡 (白山市)

白山市北西部の手取川扇状地<sup>てどりがわせんじょうち</sup>に位置し、標高は 16 m 前後です。北陸新幹線の白山総合車両基地(仮称)の建設などに伴い、平成 21・22 年度に発掘調査が実施され、中世(鎌倉・室町時代)を中心とする時期の集落であることがわかりました。平成 24 年度の調査は、車両基地建設により廃止される道路部分に係るものです。

発掘では調査区の東寄りを南北に走る幅約 2 m の堀が見つかりました。この堀は北側の平成 21 年度調査区や南側の平成 22 年度調査区でも延長部分が確認されており、屋敷地を区画するものと考えられます。堀の西側では<sup>たてあなじょういこう</sup>竪穴状遺構や<sup>ほったてばしらたてもの</sup>掘立柱建物が密集して分布する状況がうかがわれます。これまでの調査成果とあわせ、堀に囲まれた中世の屋敷地内の建物の配置がより明らかになりました。

出土遺物には土師器<sup>はじきぎ</sup>や陶磁器<sup>とうじきぎ</sup>などの土器類のほか、砥石などの石製品、<sup>はし</sup>箸などの木製品があります。土器類から、検出された竪穴状遺構や掘立柱建物が、12 世紀から 15 世紀にかけて営まれたことがわかりました。



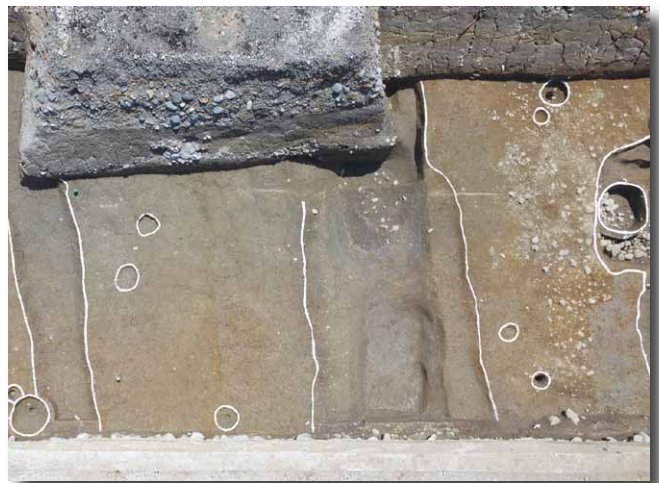
調査区



調査風景



密集する竪穴状遺構



堀(写真中央)

## 金沢城跡 [金沢市]

金沢広坂2丁目にある石川県政記念しいのき迎賓館ひんかんの北西側を調査しました。平成14年まで石川県庁が置かれていたこの一帯は、藩政時代には「堂形」と呼ばれ、藩の米蔵などがありました。

発掘では上下に重なる4つの時代の面が確認できました。上から順に概要を紹介します。

### 第1面(幕末～近代)

明治期の県庁に伴う石列(建物基礎か)や地下に埋設された土管が見つかりました。

### 第2面(江戸時代前期～同後期)

戸室石とむろいしの石列や、割石を組んだ方形の石組を確認しました。前者は建物の基礎、後者は水溜めと考えられます。

### 第3面(中世末～江戸時代初期)

幅約3m、深さ約1mの南北方向に走る区画溝から、陶磁器や土師器はじきさら皿、漆器しっきわん椀、箸はしが出土しました。また、方形や円形の大型の土坑どこうも見つっています。

### 第4面(古代)

掘立柱建物ほったてばしらたものの柱穴のほか、溝や土坑を検出しました。出土した土器から7～9世紀に位置付けられます。



遠景(北から)



戸室石の石列(第2面)



区画溝(第3面)



柱穴列(第4面)

情報  
発信

平成 24 年度 発掘報告会 「いしかわを掘る」

発掘調査を担当した調査員が、その調査成果を判りやすく紹介する「いしかわを掘る」は、本年 3 月 10 日（日）に県立美術館ホールを会場として、6 件の調査報告を行いました。

報告は、江戸時代前期の九谷窯跡と後期の吉田屋窯跡に関する調査を進めてきた加賀市九谷磁器窯跡の成果から始まり、弥生時代後期の集落を確認した野々市市の二日市イシバチ遺跡、犀川沿いで「大規模な凹み」を発掘した金沢市二ツ寺遺跡と進み、前半を終えました。

後半では、七尾市千野遺跡での建物や墳墓の様子が紹介され、金沢市が調査を進める加賀・越中国境の城郭群の成果へと進み、最後に多くの県民が注目している金沢城跡（橋爪門・玉泉院丸）の報告で終わりました。

参加された 180 名からは、報告に関する質問を受けた後、「発掘の状況が知りたかった」・「埋文に興味がある」などの動機やご意見をアンケート結果としていただきました。



報告会場のようす

古代  
体験

古代体験学習講座 「縄文狩人体験」

本年 3 月 17 日（日）に開催した「縄文狩人体験」は、狩りの道具である“矢じり”を黒曜石の破片から作り、矢羽根を付けた“矢”へと仕上げ、丸木弓でその試射を行うと共に、鹿の角を素材とするアクセサリーづくりも体験していただくことで、縄文人の知恵やワザを体験することを目的とした講座です。

石や木、動物の骨や角など、様々な材料から生活用具を作りあげた縄文人の暮らしを学んだ参加者は、“矢じり”の加工や、できあがった矢の威力に驚いていました。午後からは鹿の角を砥石などで削り、皮紐を通して“首飾り”をつくりました。

狩りの道具づくりや弓矢の体験をとおして「縄文の狩り」、「獲物の利用法」など、時代を越えて、人と動物の関わりを学ぶ機会となりました。



矢の完成



的をねらって試射

## 親と子の発掘体験教室

本体験教室は、小学校4～6年生の児童と保護者を対象に、実際に遺跡の発掘を体験する教室です。

平成25年度は、第1回を6月22日(土)に能登の七尾市古府ヒノバンデニバン遺跡で、第2回を7月27日(土)に、加賀の白山市高見遺跡で開催し、それぞれ8組17人、10組22人の参加者が、遺跡の発掘、土器の洗浄体験をしました。

奈良・平安時代の古府ヒノバンデニバン遺跡は、粘りの強い土にもかかわらず、参加者の懸命に掘る姿が見られ、出土土器を見て「これは須恵器や」「これは土師器や」とか、考古学者さながらの発言も見られました。

鉄道の脇に位置する高見遺跡は弥生～室町時代の遺跡で、当日は中世の溝などを発掘しました。炎天下の発掘にもかかわらず、汗を流しながら、土器を見つけようとがんばる参加者の姿が印象的でした。

また、2回とも参加者からは調査員に鋭い質問が数多く寄せられました。また、発掘した遺構、出土した土器などを参加者はデジカメで撮影しました。最後は「埋レポート」として体験してわかったことをまとめ、自分だけの報告書を作成しました。



七尾市古府ヒノバンデニバン遺跡



白山市高見遺跡



竹ペラを使って慎重に



親子で楽しく



大発見?! 調査員が土器を解説



出土品の展示解説



洗浄体験



「こども考古学者」認定証の授与

## 夏休み「はにわづくり」

7月20日(土)より8月4日(日)まで、恒例の「はにわづくり」を実施しました。

小松市矢田野エジリ古墳から出土した埴輪の作り方に倣い、紐づくりの古代の手法です。今年度は予約制としたため、待ち時間もなく、最初から手順よく、ていねいに作ることができ、700体の多くが上々の仕上がりでした。

個性豊かな埴輪がホールに立ち並び壮観でした。



真剣な眼差しで



親子合作のお宝



800℃で焼成

## 古代体験学習講座「いしかわの立体古墳模型づくり」

今年の新企画として8月25日に立体古墳模型づくりを実施しました。題材は中能登町の国指定史跡「雨の宮1号墳」です。高校でも習う有名な前方後方墳で、郷土の文化遺産を200分の1の大きさで再現しました。等高線に沿って切り抜いたパネルを貼り合わせ、粘土で段差を埋めました。墳丘斜面は葺石で固め、埋葬施設の割竹形木棺まで作り込む本格的な古墳の模型になりました。

時間をかけて模型を完成させた参加者の皆さんは、達成感に満ちた笑顔でいっぱいでした。



型紙を切る



粘土を傾斜部に



葺石を埋め込む